令和７年度第１回学校関係者評価委員会議事録

日　時：令和７年６月２５日（水）13：00～13：46
場　所：千葉経済大学　大会議室
出席者：

1	佐久間 勝彦	理事長・大学学長・短期大学部学長・高校校長
2	佐久間 美羊	副理事長・短大副学長・教授
3	吉田 悦教	常任理事・特任教授
4	山浦 裕幸	大学副学長・経済学部長・教授・理事・評議員
5	横山 洋子	短大こども学科長・教授・評議員
6	原田 浩二	高校副校長・評議員
7	平林　隆	法人事務局長・大学・短期大学部事務局長・理事・評議員
8	秋元 浩	千葉経済大学附属高等学校同窓会会長・評議員
9	亀田 洋子	千葉経済大学短期大学部同窓会会長・評議員
10	幅　淳徳	千葉経済大学父母の会会長・評議員
11	三代川　賢章	千葉経済大学附属高等学校父母の会会長・評議員
12	畠山 一雄	㈻畠山学園理事長・評議員
13	影山 美佐子	ビジネスライフ学科長・教授・評議員
14	山田 清實	元伊藤忠エネクス取締役会長・評議員
15	山口 和夫	㈱さつま屋社長・評議員
16	村松 重彦	㈻聖メリー学園・小ばと幼稚園理事長、園長・評議員
17	石渡 哲彦	株式会社千葉銀行顧問・評議員
18	佐久間 道子	評議員
19	粟沢 尚志	教授・評議員
20	藤代 謙二	㈱ちばぎん総合研究所顧問・評議員
21	積田 悟	前高校副校長・評議員
22	青柳 俊一	㈱千葉興業銀行会長・学園監事
23	植松 省自	税理士法人京葉会計事務所代表社員・学園監事

１．開会のあいさつ

２．理事長あいさつ

議題

【１】令和６年度事業報告について

議長の指名により、平林　隆 法人事務局長、浅井　優規 会計課課長補佐から、別添１「学校法人千葉経済学園令和６年度事業報告書」に基づき、法人の概要、事業の概要、財務の概要について説明がなされた。

事業の概要

建学の精神「片手に論語 片手に算盤」及び校是・校訓に基づき、教育の質の確保・向上を図り、良識と創意に満ちた人材の育成を使命として、学園経営に当たった。

学生・生徒数の確保と徹底したコスト抑制によって財務の健全化を図り、教育環境の整備充実に努めた。

令和６年度に実施した事業の主な内容は次のとおりである。

[千葉経済学園]

（１）建学の精神の啓蒙

建学の精神「片手に論語 片手に算盤」について、「今月の論語」の教室掲示や総合図書館の「論語」及び「千葉経済学園と渋沢栄一」コーナーを設置する等、多様な取組みを通じて周知徹底を図った。

（２）寄附募集活動の展開

学園創立１００周年に向けて寄附募集についてのチラシを作成し、広く周知に努めた。引き続き、様々な方策を検討し、寄附募集に努める。

（３）私立学校法の改正への対応

私立学校法の一部改正を踏まえ、寄附行為の改正を行った。

（４）大学・短期大学・附属高校の三者連携推進

「千葉経済学園三者連携会議」（７回開催）を軸に、教育、入試、進路指導、広報等にわたって三者間の密なる機能連携を図った。

（５）資格取得奨励

各種検定・資格の取得を奨励し、高度資格の取得者には奨励金を授与した。

（延べ人数で、大学 57 名、短期大学 25 名、高校 52 名）

（６）広報活動の充実・強化

高校・短期大学・大学進学適齢人口の減少を踏まえ、学園の魅力や強みを発信し、認知度の向上を図るため、以下の通り様々な広報手段を用いて広報活動を実施した。オープンキャンパス参加者には、教職員が一体となり学園の魅力や強みを伝えるとともに、来訪後も継続的に情報発信することにより、志願・入学へと誘導するよう努めた。

〇附属高校に対しては、「進路ガイダンス」等での教職員による丁寧な情報提供、附属高校卒業生から短期大学を経て活躍する先輩の姿を紹介するポスター掲示、ミニキャンパスツアーの実施、短大の授業公開、附属高校生対象の入試説明会の実施などあらゆる機会を通じて大学・短期大学に関する情報を発信するとともに、第 3 学年教員等を対象とする意見交換会を開催し、信頼関係の構築に努めた。

〇県外高校の生徒に対しては、進路情報サイトや本学ホームページを通して情報提供を行うとともに、特に茨城県南部や東京都東部の高校を中心に「進路ガイダンス」において、本学の魅力を高校生に伝え、オープンキャンパスへの参加誘導を図った。

〇附属高校の広報活動

普通科・商業科・情報処理科の 3 学科を設置する「懐の深い高校」であることをホームページや KEIZAI ニュースで周知を行った。部活動や資格取得等で頑張る生徒を心から応援する学校であることを広く知らしめ、向学心のある生徒の入学に努めた。

（７）地域社会との連携

① 「ちば産学官連携プラットフォーム」は協定締結６年目となり、他大学・短期大学、自治体・産業界と連携して学生募集・教育活動・就職支援・生涯学習・地域支援の推進を図った。

② 「千葉都市モノレール株式会社」との相互連携協定は締結６年目、「千葉市稲毛区」「公益財団法人千葉県文化振興財団」との相互連携協定も締結５年目となった。それぞれの特徴や資源を活用しながら情報発信、教育・人材育成など、各分野での連携を図った。

③ 株式会社千葉ジェッツふなばしとの「オフィシャルサプライヤー契約」は契約締結から５シーズン目となり、引き続き、ユース選手の練習に短期大学体育館を提供するとともに、ユース選手の奨励奨学金制度をサプライ内容とする契約を更新し、チーム応援呼称権、●　地域社会との連携

① 「ちば産学官連携プラットフォーム」は協定締結 7 年目となり、他大学・短期大学、

自治体・産業界と連携して学生募集・教育活動・就職支援・生涯学習・地域支援の推進を図った。

② 「千葉都市モノレール株式会社」との相互連携協定は締結 7 年目、「千葉市稲毛区」「公益財団法人千葉県文化振興財団」との相互連携協定も締結 6 年目となった。それぞれの特徴や資源を活用しながら情報発信、教育・人材育成など、各分野での連携を図った。

③ 株式会社千葉ジェッツふなばしとの「オフィシャルサプライヤー契約」は契約締結から 6 シーズン目となり、引き続き、ユース選手の練習に短期大学体育館を提供するとともに、ユース選手の奨励奨学金制度をサプライ内容とする契約を更新し、チーム応援呼称権、リボンビジョン LED 広告や U18・U15 ユニフォームシャツ（背中）へロゴを掲載する権利・役務の提供を受けた。

④ 「ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム」は、参加団体が計 17 団体となった。令和 3 年の設立時会員として、引き続きアントレプレナーシップ教育に関する連携を図った。

（8）ボランティア活動の推進

学生・生徒たちが「青葉の森リレーマラソン大会ボランティア」、「千葉県誕生 150 周年記念事業フィナーレイベント―ギネス世界記録に挑戦 手つなぎボランティア―」、「シャルムの夕べ「夜灯」ボランティア」、「X-Games ボランティア」、「くさ野あかり祭ボランティア」、「ちばアクアラインマラソンボランティア」に参加して、教職員も同行した。活動に対しては主催者から高い評価を受けた。参加した学生・生徒たちの満足度も高く、毎回「また参加したい」との声が聞かれた。活動の成果については大学・短期大学・高校のホームページに報告記事の更新を行い、千葉市長には「市長とのティーミーティング」を通じて直接伝えたりする機会もあり広報に努めた。「ちばアクアラインマラソン」の活動時には、学園名の入った横断幕も掲出した。

（9）FD 及び SD の充実

大学・短期大学では「SD（教職員の職能力向上のための研修）推進計画」を踏まえ、FD（教員の教育力向上のための研修）と連携して、組織的・体系的な研修の充実を図った。

学生指導に関する研修は、附属高校の職員も含めて学園として取り組み、「多様化する学生に対する対処法」をテーマに実施し、学生への組織的な対応方法について学んだ。

また、「学園とブランディング」をテーマに実施し、少子化の中での競合校と本学のブランディング戦略を学び、社会に支持される教育機関であり続けるための課題について学んだ。

学園事務局では部局を超えた協働・協力体制を整え、そのうえで教職協働によって学

園の教育環境の充実を図った。

（１０）事務職員の勤務体制の改善

働き方改革の趣旨を踏まえて、労働条件の改善に努め、雇用形態の異なる職員間に均衡の取れた待遇がされるように規程整備の検討を行った。

（１１）防災備蓄の整備

引き続き、学生・生徒・教職員用に非常用食料や保温シート等の防災用品を計画的に備蓄し、災害時に備えた。

〔千葉経済大学附属高等学校〕

（1）「令和の日本型学校教育」の実現に向けた教育

「主体的・対話的で深い学び」の実現に努め、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を適切に連動させて、生徒一人ひとりの可能性を引き出す授業展開に努めた。

（2）学力向上のための授業内容の充実

新教育課程への年次進行が 3 年目(一巡)にあたり、各教科の指導内容と学習評価について共通理解を図るとともに教育活動の向上と学習効果の最大化を期してカリキュラムマネジメントに努めた。

令和 5 年度より導入したタブレットの利活用について、様々なソフトや機能についての教員研修を実施、授業での実践に努めた。教具として使いこなすための「タイピングコンテスト」を開催することで生徒よりタイピング能力が向上したとの感想も得られた。タブレットを通して、知識を吸収するだけでなく表現する方向にも授業が進化した。また、「楽しさ」「理解度」「家庭使用」「学校課題」の 4 観点で数値化したデータを算出、次年度以降の「ＩＣＴ活用」満足度向上を目指す目標を定めた。

（3）観点別評価を活かした学習計画とキャリアパスポートによる指導の充実

新学習指導要領が提示する観点別評価を適切に行い、3 観点（「知識･技能」「思考･判断･表現」「主体的に取り組む態度」）の学習評価に取り組んだ。また生徒には、学内外で行う活動を「キャリアパスポート」に記録させることで自らの成長を確認、目標修正などの改善を支援した。

（4）普通科の教育充実

特進コースでは、理系を志望する生徒の教科指導を充実させ、多様化する大学入試に対応した進学指導に努めた。特進プロジェクトチームによる各種講座や補習により学力

の向上・定着を図った。また、スタディサプリ等の ICT 活用を推進した。その結果、今年度卒業の特進コース３年生は、国立大学では千葉大学の教育学部、難関私立大学においては、上智大学・学習院大学・立教大学・法政大学などへの合格を果たすことができた。

文理一般コースでは、段階的なコース選択(文理選択)や科目選択を導入し、生徒の多様な進路希望について柔軟に対応した。さらに、将来を切り拓く確かな学力の定着を図るべく、進学に関する各種講座として教科の講座はもとより小論文講座も開講し、総合型選抜をはじめとする大学入試の対策を実施した。その結果、弘前大学･立教大学・法政大学・専修大学など、国立大学や難関私立大学および中堅私立大学の合格を含め、進学実績を上げた。

文Ⅱコースでは、多種の体育系部活動に所属する生徒が日々の練習に励み、後掲のような活躍をし、全校生徒の気持ちを高揚させた。

（５）商業科の教育充実

ビジネス関連科目の教育充実を図り、高度資格に挑戦する支援を積極的に行った。1 年生の簿記 3 級合格率は 94.8%となり、「総合的な探究の時間」の代替科目である「課題研究」においては開発した商品･サービスを文化祭で展開した。稲毛海岸プールや隣接するグランピング施設での販売をはじめ、多方面との共同活動を行った。千葉経済大学短期大学部こども学科の支援を得てキッズビジネスサービスを実施した。また 1 年生を対象とした、ZOZO, Inc.（フレンドシップマネージメント部）による講演「楽しく働く」を実施した。

また、進路指導も周到に行い、学習院大学、駒澤大学等へ合格した。

（６）情報処理科の教育充実

高度資格に挑戦する支援を行い、1 年生の情報処理 3 級合格者は 97.8%という高い合格率であった。また、経済産業省主催の国家資格、情報処理技術者試験においては IT パスポート試験で 14 名、応用情報技術者試験で 1 名、基本情報技術者部門で 1 名の合格者を輩出した。また、3 年間の集大成として卒業制作発表会を実施し、在校生や保護者の方を招待し、3 年間の学びを発表する場を設けた。

さらに進路指導も充実し、学習院大学、駒澤大学、千葉工業大学へ合格するなど進学実績を上げた。

（７）部活動の意義を踏まえた振興の充実

部活動については、各省庁のガイドラインに則り、教員の働き方改革の動向も踏まえた活動を展開しつつ、生徒のもつ資質や能力を伸ばし、各種大会･コンクール・発表会での活躍を目指した。その結果、運動部においてはソフトボール、ボクシング、バスケットボー

ル、卓球、柔道、自転車競技、弓道、水泳（同好会）の各部が関東大会・全国大会に出場した。なお、自転車競技部とソフトボール部においては全国優勝という輝かしい成果を上げた。文化部についても珠算部、バトントワラーズ部が全国大会へ出場した。特にバトントワラーズ部は、ダンスドリル選手権大会とカラーガード・マーチングパーカッション全国大会の 2 つの大会で全国大会へ出場した。

（８）教員研修の充実

初任者に対して、校内実施の研修会の他、私学教育研究所主催の研修をも組み込んだ初任者研修を実施した。外部講師によるプレゼンテーションソフト利用についての研修会及び校内委員会による ICT 教育に向けた研修会も複数回実施した。また、校外で行われる研修にも積極的な参加が見られた。

（９）生徒募集と広報活動

オープンキャンパス・入試説明会は予約制とし、参加人数の上限を定めて行った。15 歳人口減少のなかで、ホームページや KEIZAI ニュースを随時更新、発行するなど全教職員で生徒募集にあたった。他私学の募集方法変更も影響し、普通科文理一般コースの志願者が増え、また、商業科、情報処理科の入学者数も安定し、637 名の新入生を確保した。

（１０）いじめ及び体罰の防止による健全な教育活動の展開

「いじめ及び体罰防止委員会」を活かし、教員相互の協力のもと早期発見に努めた結果、深刻な問題へと発展する事例は発生しなかった。

（１１）施設設備の改修

第 1 体育館に空調機を設置し、第 2 校地の部室前に防球ネットを設置した。

以上

【２】令和６年度決算について

議長の指名により、浅井　優規 会計課課長代理から、令和６年度決算について別添２「令和６年度　学校法人計算書」及び資料２「財産目録」に基づき、資金収支決算額、事業活動収支決算額及び令和７年３月３１日現在の貸借対照表について説明がなされた。続いて、議長から本決算に関する意見を求めたところ、青柳 俊一 監事から、青柳 俊一、植松 省自 両監事より提出された監査報告書（資料１）に基づき学園の業務及び財産に関する不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことが認められた旨報告がなされた。

【３】その他（報告事項等）

議長の指名により、原田 浩二 高等学校副校長より附属高校の近況報告及び満足度調査結果についての説明があった。

満足度調査結果　全科全学年＜Ｒ６年３月度＞

１年に２度、７月と３月に調査を行っております。コロナがあけましてから、満足度調査の数値も以前のように戻りまして、前年の７月度に比べましても遜色ありません。同程度で推移しておりますので、このままの満足度を維持できるように努めてまいりたいと思います。

・意見

・是非、甲子園目指して頑張っていただきたい。

・学園の決算報告をお聞きしまして、随分頑張っていると思いますとの意見があった。